

こども通信

今年も大雪になりました、特に山間部で。コロナ流行もあり、厳しい冬でしたが、早く春がやって来るといいですね。

* * *

世界中が突然きな臭くなりました。砲弾がとび、銃撃が起き、兵士のみならず、子どもたち、お年寄り、女性を含む一般市民が戦火に追われ、怪我をし、命を落としています。ロシアによる隣国ウクライナへの侵攻です。独立国への攻撃は、どんな理屈を並べても「侵略」です。武力で他国を従わせ、権利を蹂躪することは間違っています。

ロシアのプーチン大統領は、かつてのソビエト連邦の崩壊が残念でならなかったそうです。その時代のロシアに戻りたいという、時代錯誤の考えを持っているのだとか。そんなプーチンに、欧米諸国はど

んな対応をしてきたのか、それも疑問です。クリミア半島の併合の時も、最終的には事実上それを許してしまっただけではないか。そんな中から、武力を争いごとの手段とすることを学んでいったのではないか。

平和な世界は一朝一夕にできるものではありません。粘り強い、不断の外交努力と、民主的な国家づくりが必要です。もしそれを怠ると、どこかに独裁者が現れてきます。

地下壕に逃れ、「死にたくない」と涙していた子どもの映像が目から離れません。

戦争は殺し合い。国家による犯罪行為。絶対悪。

NOWAR!

STOP WAR!

そう叫ばずにはいられません。

一日も早い和平の実現を強く願っています。

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科
.....
上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456
.....

各種ネット予約
www.0255447777.com/i
ホームページ
www.kodomo-iin.com

感染症情報

新型コロナウイルス感染症の第6波が当地でもかかってない大きな流行になり、まだ収束の様相は見えていません。全国各地で「まん延防止等重点措置」が出されていますが、流行が続くため、延長しているところがほとんどです。

今回の第6波はオミクロン株と呼ばれる変異株によるもの。これまでよりも重症度は低い一方で伝染の速度がとても速く、潜伏期がわずか2、3日。何よりも小児や若年層での感染者がとても多いのが特徴です。しかし、その後高齢者などに拡がり、ブースター接種を受けていない方が重症化しているようです。十分に警戒してください。

個人の感染予防策はこれまでと変わりありません。お互いにマスクをしっかりとし、他の人との距離をとるなどが大切です。

感染性胃腸炎は少し流行があります。急に吐いたり下痢をしたりするウイルス性の感染症で、ノロやロタが主です。しかし腹痛が強い時、高熱や血便をとともなう場合は細菌性腸炎（カンピロバクター、サルモネラ、病原性大腸菌など）も疑われます。

このほかでは溶連菌感染症、アデノウイルス性咽頭炎などが少しずつ発生があります。いずれも咽頭痛と発熱が特徴で、登園停止の扱いです。溶連菌感染症には抗菌薬による治療をおこないます。

ヘルパンギーナや手足口病といった夏かぜも少数ですが見かけます。本来夏場に流行するものなのですが、季節外れの様です。

水曜午後の診療体制変更

- 先月より水曜午後の診療時間を午後4時30分～6時に変更しました。予約制ではありませんので、受診希望の方は直接来院してください。
- 受付時間は午後4時30分～5時45分です。
- 新型コロナ予防接種を集中的に行うための対応です（成人3回目、5～11歳小児の1、2回目接種が始まります）。
- 応急的な対処が主になりますので、定期受診の方は別の日をお願いします。

今月の予定

院長・副院長出務

上越市夜間診療所勤務 16日（院長）

上越有線放送「健康ライフ」15日

FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報（毎週）

FM上越：木曜午後1:35頃～

上越有線放送：月曜午後6時～（番組内）

医院ホームページ内

新型コロナ

第6波は手強い！

新年に入ってから本格的に始まった新型コロナの第6波流行・当初は1か月ほどでピークアウトするのではないと言われていましたが、2か月経つのにその気配がまだ見えません。

●子どもに多く発生

これまでとは違う最大の特徴は子どもがかかりやすいということ。当院でも毎日のように陽性者が出ています。

保育園や幼稚園での発生も多く報告されています。幼児は密着して集団生活を送っているため、ひとたびコロナウイルスが入り込むと、たちまち周囲の子どもたちがかかってしまうこととなります。

幼児にもマスクをさせよという意見がありますが、子育ての現場を知らないのでしょうか。大人のように上手に使うことは無理。むしろ息苦しくなったり、乳児は窒息を起こす可能性もあり、危険なこともあります。

す。

幸いなことに、子どもたちは軽い症状ですむことが多いようです。でも、中には重症化することもあるので、油断はできません。

さらに、家庭内で子どもから大人、そして高齢者への伝染が起きて行きます。年齢が高い方が症状が強くなる傾向があります。

実際に高齢者の介護施設などでのクラスター（集団発生）も多くなりました。3回のワクチン接種が終了していれば重症化が防げるようですが、残念ながら3回目の接種が十分には進んでいません。

さらに、過去最大の患者発生になつているため、入院できず自宅療養になつている方が多数になりました。そんな中から急変しても、入院できずに亡くなってしまうという不幸な事態も生じています。まさに「医療難民」です。

奇妙な現象がおきています。「重症化率」より「死亡率」の方が多いというのです。国の定義では「重症」とは病院に入院して呼吸器を装着するなど、濃厚な医療ケアを受けてい

る患者をさします。自宅や療養施設で亡くなる例は「重症例」として把握されてません。軽症からいきなり死亡者が出ているのです。

コロナ患者だけではなく、一般医療も十分に受けられないケースもあります。本来なら救える命なのに、その機会が失われていることは、とても残念なことです。

現在の状況は国民皆保険（いつでも、どこでも、誰でも医療が受けられる）の原則が完全に崩壊していると言わざるを得ません。

都市部では患者発生数が減少してきたのですが、そのスピードはゆっくりです。第5波の時のように、スパッと消えていくことはないでしょう。

困ったことに、重症者は今後さらに増えてきます。そして死亡者も。悲惨な医療状況はまだしばらく続くことでしょう。

●ワクチン接種

政府の無策により遅れてしまった成人や高齢者の3回目接種ですが、ようやく進み始めました。2回目か

ら6か月以上経過していれば3回目を受けることができます。個別接種や集団接種の機会があれば、早めに受けるようにお勧めします。重症化を防ぐ効果があります。

5〜11歳小児への接種がようやく始まりです。子どもは症状が軽いので、受ける必要性は高齢者や成人よりは低いでしょう。

しかし、やはりかかって欲しくはないですよ。もしかかると、本人だけではなく同居家族も濃厚接触者として社会生活ができなくなります。また高齢者へ移してしまうのも心配です。

もう一つ大切な理由があります。それは5歳未満の乳幼児を守るということです。その年齢の乳幼児にはまだワクチンがありません。その子たちをコロナから守るのは、周囲の大人や上の子どもたちがワクチン接種を受けて、コロナを家に持ち込まないことが重要です。

子どもたちへの接種は、大人とは違って大変ですが、かかりつけの小児科が対応してくれると思います。ぜひ接種を受けてください。